

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち  
教育の小径

No.211

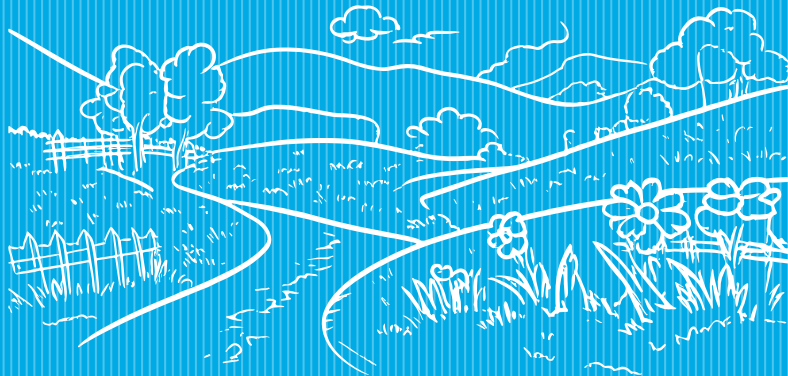
2026 May

5月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



## 今月のことば

やみよ てっぽう  
闇夜の鉄砲

暗闇のなかで鉄砲を撃っても、玉は的に当たりません。当てずっぽうに行くことや、向こう見ずな行動に走ることをいいます。

## 重視したい学校の広報活動 —学校PRの時代—

- 学校の教育活動の様態を保護者や地域住民に広く発信し、広報することは、学校に対する信頼を高め、理解と協力を得ることにつながります。
- 地域のメディアなどさまざまな手段を活用して、これからも学校の広報活動を重視することが大切です。学校もいまや「PRの時代」です。

## さまざまな手段を活用して

地域に開かれた学校づくりを進めることが課題になってから、久しく時間が経ちます。「開く」ことのひとつに学校の教育活動に関するさまざまな情報を地域に発信することがあげられます。学校の教育活動の様態を保護者や地域の人たちに知らせることは学校への理解と協力を得るためだけでなく、学校の存在意義や役割をアピールする重要な意味があります。

これまででも学校の様子は、保護者会やPTAの会合などの場や、学校通信や学年・学級便りなどの印刷物とおして、あるいはメールで伝えてきました。これらの情報を心待ちにしている保護者は多いと聞きます。

ある学校は学校通信を地域の公民館の案内板に掲示したり、回覧板に添付したりして、地域住民に広く広報する努力をしています。子どもたちの作品を「道の駅」などに展示している学校もあります。近年では、学校のホームページにその日の教育活動や学校行事の様子を写真入りでリアルタイムで公表している学校が増えてきました。

これらの工夫によって、子どもが学校に通っていない家庭でも、学校の出来事や子どもの様子を知ることができ

ますから、関心を寄せるようになります。これは、何かのとき協力を得ることにつながる可能性があります。

いまや学校においてもPRの時代です。学校から積極的に情報発信することで、保護者や住民は学校に対する期待と信頼を高めていきます。

## 地域のメディアを生かす

学校にうかがうと、職員室の廊下の掲示板などに、その学校の教育活動を報道した新聞記事が掲示されていることがあります。校長は「学校行事や特色ある教育活動を実施するときには、地域の新聞社にも伝えていきます。記者のかたが来られなかったときには、活動の様子をメモし、写真を添えて届けています」と話していました。地域のメディアを生かして、積極的に情報発信している姿勢が伝わってきます。

地元の新聞で紹介されると、学校の教育活動が広く知れわたります。ほかの学校への波及効果を高めることにもなります。もちろん子どもたちや保護者にとって誇らしいことです。

ただ、テレビカメラなどで撮影したり取材したりするときには、事前に校内で情報を共有しておきます。子どもたちの人権やプライバシーには十分配慮します。保護者に了解をとっておく

## 今月の記念日

5月14日

## 温度計の日

1686年のこの日に、水銀温度計を発明し、華氏温度計の目盛りに残したドイツの物理学者であるガブリエル・ファレンハイトが生まれました。

ことが必要になる場合もあります。

学校の教育情報には公開してよいものと、公開してはいけないものがあることに十分留意します。

## 子どもたちは広報の発信源

学校の教育情報の発信にはさまざまな方法や手段があります。もっとも身近にあって有効な働きをするのは、一人一人の「子ども」です。子どもたちは帰宅すると、学校での楽しかったことや悲しかったことなど、その日の出来事を家庭で話題にします。地域の人たちに話すこともあります。

子どもたちが学校の様子を知らせる発信源になっているのです。しかも、日常的に発信されています。情報の発信源は子どもの数だけありますから、効果は大きいものがあります。保護者や地域住民は子どもたちの話をもとに学校のことを知り、それが学校や教師に対する評判や評価につながります。

ただ、子どもが話す情報が一面のだったり、誤解していたりすることもありますから、注意する必要があります。誤って伝わっている場合には事実にもとづいて分かりやすく説明します。

各学校はこれからもさまざまな方法や手段を活用して、教育情報を正確に発信しつづける努力が求められます。

「教科観」とは、教科とはいかなるものか、教科の役割は何かなど、教科に対する捉え方のことです。

戦後、学習指導要領（試案）が出されたころは、子どもたちが多方面にわたって学習・経験したものが教科であると、子ども側に立った教科観が主張されました。その後、軸足が指導内容と教師側に移され、教科とは子どもたちに指導し習得させるべき知識や技術などのまとまりであるとされました。教科とは「科学・技術・芸術など人類の文化遺産を教育的に組織したもの」であるとされたのです。

学習指導要領の構成をみると、「各教科」として国語、社会、算数、理科など10の教科が示されています。道徳科は「特別の教科」とされています。外国語活動や総合的な学習の時間、特別活動は教科ではありません。

教科は「人類の文化遺産」を子どもたちに身につけるために、教育的、便宜的に設定されたものです。各教科には教科書があり、時間割にも教科の名称が示されています。子どもたちは教科ごとに学びますが、頭のなかが教科ごとに分割されているわけではありません。各教科等の学習成果は一人一人において統合化され、やがて学力として形成されていきます。

日々の授業においては、各教科の固有な知識や技能、技術などを習得させるだけでなく、それらを統合化させる営みが必要になります。従来こうした営みを子ども一人一人に任せていましたが、意図的な指導が必要です。このような趣旨で設けられたのが、平成10年版学習指導要領で新たに創設された総合的な学習の時間です。



## 国語に関する世論調査

文化庁は全国の16歳以上を対象に実施した、令和3年度の「国語に関する世論調査」の結果を公表しました。

「国語に関心があるか」の問いに、全体の81.8%が、「非常に」「ある程度」と回答しました。関心のある点は、多い順に「日常の言葉遣いや話し方」が79.4%、「敬語の使い方」が48.8%、「文字や表記の仕方あるいは文章の書き方」が38.4%でした。

次に、「言葉や言葉の使い方について社会全般で課題があると思うか」については、「あると思う」が84.6%を占めました。課題の主な内容は、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いができて

いないことが多い」（59.5%）、「インターネットでの炎上のように、中傷や感情的な発言が集中」（55.3%）、「流行語や言葉の使い方の移り変わりが早過ぎる」（45.1%）などでした。

「情報機器の普及で言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うか」については、90.6%が影響を受けると回答しました。主な内容は「手で字を書くことが減る」が89.4%、「漢字を手で正確に書く力が衰える」が89.0%、次いで「人に直接会いに行ってお話することが減る」が54.5%でした。

パソコンの使用には利点がありますが、一方、手書きすることには思考や理解を深めるという、優れた利点があります。これからも日常生活において実際に書く活動を重視したいものです。



## 教員採用に思うこと

教員採用試験の倍率が全国的に低下傾向にあります。特に小学校教員を受験する人が少なく、倍率が2倍を切っている地域もあります。何ごととも倍率が3倍を切ると、合格者の質が低下するそうです。質を担保するには一定以上の倍率を維持する必要があります。

必要な教員数が確保できず、4月に正常な教員配置ができない地域もあると聞きます。教員の志望者が多く、「狭き門」といわれていたころとは状況が大きく変わってしまいました。

教員の採用を行っている都道府県や政令指定都市は、必要人数を確保しようと、試験内容を削減したり試験会場を増やしたり、さらに試験の日程を早めたりするなどして、受験者を増やすた

めにさまざまな工夫や対策をとっています。ある県の人事担当者は「とにかく必要な人数を揃えることが先決。質はその次だ」としていました。

こうした取り組みをみて感じることは、苦勞していることを認めつつも、小手先の対処になっていないかということです。試験日を早めて実施して志願者を増やし、合格内定の通知を早期に出しても、その後辞退する人が多いと聞くからです。根本的な解決策になっていないようです。

なぜ、学生は教員を志望しなくなったのか。教職の魅力をあげるためにはどうしたらよいのかなど、根本に関わる検討と対策がとられていないように思われます。教職の魅力がほかの業種と比べてなくなっているのかもしれませんが。魅力アップの施策をとらなければ、教員を志望する人は増えません。採用の問題は教員の処遇や環境の改善なくして解決しないと考えます。 (A)

### INFORMATION

2026年度  
ぶんげいテスト採用無料特典



紙の単元テストが、  
タブレットでもできる!



○付け不要  
自動集計

今までどおり紙での実施もOK!

らくらくAI作成!

<ダッシュボード>  
まなびレポート

面談資料 所見

らくらく/  
資料作成の  
負担ゼロ!

「教育の小径」の  
すべてのバックナンバーを  
文溪堂ホームページから  
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも  
お勧めください。



ぶんげい 教育の小径 検索

### 編集後記

普段の生活の中で、学校の様子を窺い知ることにはなかなか難しいのですが、ニュースやテレビ番組、町の広報などで、学校の取り組みの情報を目にすることがあります。農作業の体験や伝統文化に触れる行事など、様々な経験をしている子どもの姿は、輝いて見えます。そんな子どもたちの様子を見ていると、自分も一緒に学んでいるような気持ちになります。(M記)



企画・編集：ぶんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2026年5月1日